

 WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

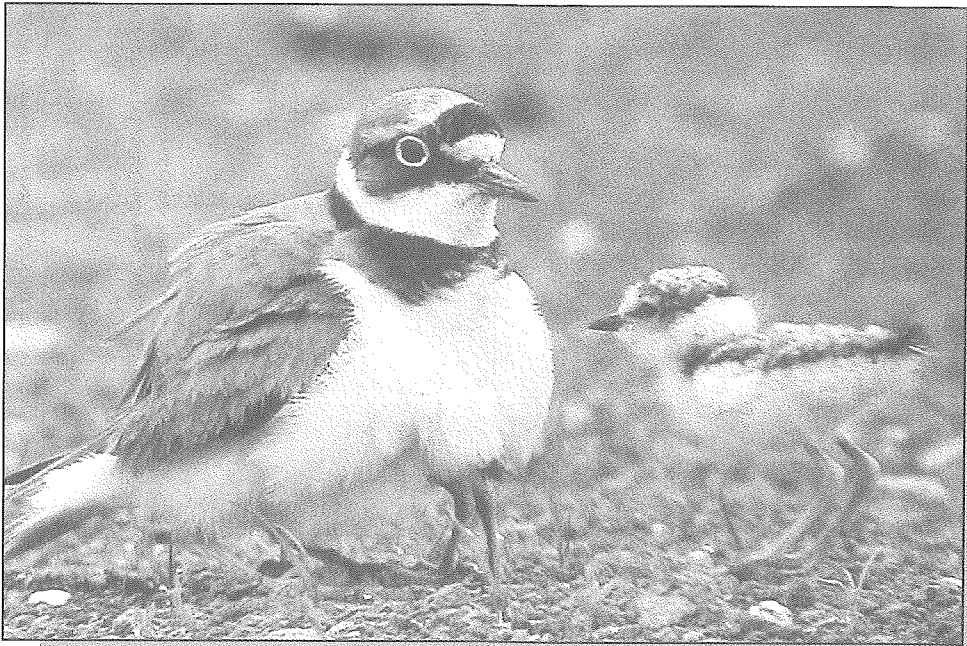
しらこぼと

2004.7

No.243

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



おおよし 大吉の鳥だより

鈴木 悠司 (越谷市)

私は中学生2年生のときから野鳥観察をしている。きっかけは、埼玉県支部会員の方に三郷市の観察会に連れて行ってもらい、自分の家の回りにもたくさんの野鳥がいると知ってからだ。それからは、近所にある大吉観察池で野鳥観察を行っている。

今回は、水鳥を中心に私のフィールドの様子をお伝えしたいと思う。

カイツブリ、見～つけ！

一年中いつ行っても、池の中央にプカプカ浮いている小さな姿、しきりに潜水もする。そう、カイツブリである。私はカイツブリが大好きである。あの丸っこい形と少しとぼけた目、潜る時は水に突っ込むように入り、びよこんと斜めに水面に出てくるそんな仕種も何とも言えず愛らしい。

水面を泳ぐカイツブリは優雅に見える。しかしそのためには、水中で足を必死に動かしている。ハクチョウにもいえることだが、立派な態度をとるためには、陰の努力が必要なのだと思った。カイツブリも人間も必死なのである。そんな努力している姿を見ていると私も励まされた。

また、カイツブリは私が冒頭の観察会で初めて見た鳥であり、思い出深い鳥なのだ。

陸に上がるオオバン、バン

池に近い所で陸地上に上がるオオバンを見つけることがある。虫を捕っているのだろうか、ニワトリのように地面をつついている。採餌する姿はとても可愛いが、ひれ状で幅広い指は泳ぐのには適していても、歩きづらそうである。

ある。バンに比べると陸上での生活が少ないようだ。

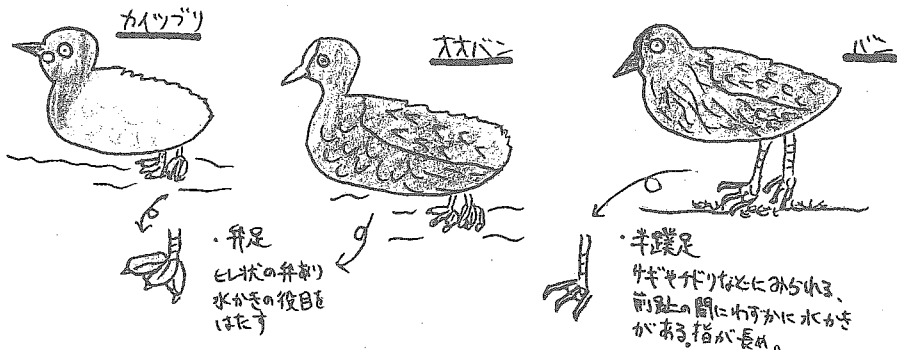
大吉のバンは、陸にいる時間のほうが多いようだ。オオバンは水上での生活が主だが、バンは水上よりもアシなどが生えている湿地が好きらしく、そのような場所でよく地面をつついている。半蹼足であるバンは、地面を素早く動く事ができるのだ。

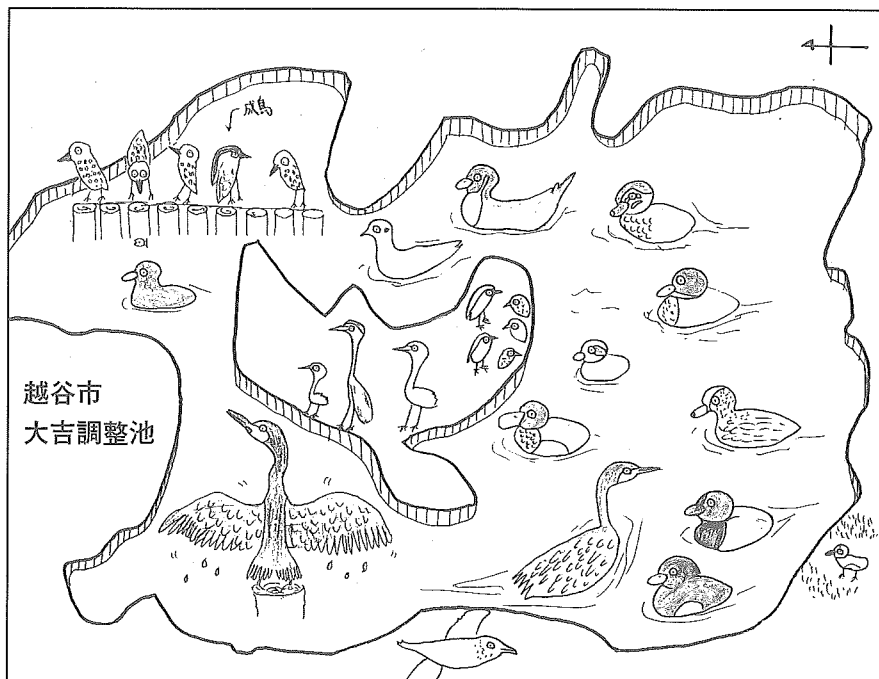
また、今の季節はバンの黄色と赤が実に鮮やかで、周りの新緑がバンをさらに際立たせてみえる。

大吉の頭脳派、協力派、実力派

冬、マガモやバンが地上で餌をついばむ中、トボンとダイビングを繰り返すカモがいる。そう、キンクロハジロだ。また、他のカモたちが日向ぼっこをしている時でも、黙々と潜って餌を採っている。早い者勝ちとでも思っているのであろうか。そんなキンクロハジロは大吉の頭脳派だ。

カイツブリは、いつも少なくとも2～3羽以上の群れで泳ぎ回っているように見える。カモ類などが近寄ってみると、「キリリッ」と協力して威嚇しているようだ。潜る時も一





観察種 ('02~'03)
カイツブリ
カワウ
ゴイサギ
ダイサギ
コサギ
アオサギ
マガモ
カルガモ
コガモ
ヒドリガモ
オナガガモ
ハシビロガモ
ホシハジロ
キンクロハジロ
バン
オオバン
ユリカモメ
セグロカモメ
シラコバト
キジバト
ハクセキレイ
ヒヨドリ
モズ
ツグミ
セッカ
カワラヒワ
スズメ
ムクドリ
ハシボソガラス
ハシブトガラス

羽ずつ潜り、残りのものは警戒を怠らない。仲間と助け合いながら、その小さな体で生きているカイツブリは大吉の協力派だ。

大吉の実力派はカワウだ。潜る時も大きな水しぶきが立つ。出てくるときも突然だ。長時間潜れるらしく、キンクロハジロやカイツブリは10~20秒潜れるが、カワウは30秒経っても出てこない時がある。飛び立つ時もダイナミックだ。

疑問が解けるとうれしい

カワウが水から上ってきて、杭の上に立ち、羽を広げた。周りのカモに威嚇している様子もなく、たまにパサパサと羽を広げたり閉じたりしている。

望遠鏡で見ると、ポタポタと水滴が垂れている。羽を乾かしているのだろうか。早速、図鑑で調べると「カワウ(ウミウも)は翼を広げて羽を乾かす習性がある」ことが分かった。羽が乾き終わったカワウは、少し首を傾げた後、また水にもどっていった。

このようなほんの小さな疑問でも解けると

うれしい。鳥についての知識が少し広がった。

これから

鳥の観察をするようになってから、季節の変化を以前に比べ、敏感にまた深く感じるようになった。むしろ、鳥に限らず様々な生き物が、それぞれのよさや美しさを人間に見せつけることによって、初めて人間が季節や自然を感じる事ができるのではないかなと思うようになった。

野鳥を通して自然を身近に感じる事ができたら素敵ではないかなと思う。そのためにも今後も自然観察を続けたい。

あなたのフィールドを紹介してください

それを原稿にしてみませんか。編集部もお手伝いします。今月の寄稿者は現在高校1年生。時々、私信『大吉の鳥だより』を編集部に送ってくる。これがなかなかおもしろい。そこで特集用に加筆修正してもらったしだいです。

2004年カモ科調査結果

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

本調査が実施された1月10日と1月12日は穏やかな晴、1月11日は北西の強風下の晴でした。渡良瀬遊水池・貯水池、武蔵丘陵森林公園、道満(荒川第一調整池)が半減近くとなり、久喜菖蒲公園・昭和池が倍増、県立農林公園・芳沼が昨年並みと、全体としては、減少に歯止

めがかかっていません。トモエガモは荒川・道満、武蔵丘陵森林公園、久喜菖蒲公園・昭和池の3カ所で14羽、昨年より半減しています。県内28カ所、43人の会員の方にご協力いただきました。ありがとうございます。

(小荷田行男)

調査地	入間川		荒川					その他公園	古利根川		渡良瀬遊水池	県の庄公園	小荷田
	壺水橋、新富士見橋	物産橋、雁見橋	荒川鉄橋、戸田橋	荒川第一調整池	秋ヶ瀬橋、羽根倉橋	南浦橋水機橋、びん沼川	玉渡ダム		赤橋、堂面橋	藤塚橋、古利根橋			
調査範囲	狭山市		戸田市	川口市	さいたま市	富士見市	さいたま市	寄居町	草加市	松伏町	越谷市	越谷市	川越市
コブハクチョウ											3		
オンドリ							33						
マガモ		11		32			113		4		550	8	10
カルガモ	45	106		33	34	61	13	67	62	1123	66	6	18
コガモ	79	125		73	20	24		7	49		79	178	64
トモエガモ				1									
ヨシガモ				1							9		
オカヨシガモ	8			46	2							34	
ヒドリガモ			62	25	3	16		65	195	2	315		38
アメリカヒドリ													
オナガガモ				3	19			83	32		10		160
ハシビロガモ				36		30		123	2			6	11
ホシハジロ				30	36			148					
キンクロハジロ		1		13	9			17			2		
ホオジロガモ											1	1	
ミコアイサ				3	4						14		
カワアイサ											8		
カモsp											731		
種数	3	4	1	12	8	4	3	7	6	1	12	6	6
合計	132	243	62	296	127	131	159	510	344	2	2853	293	301
調査者数	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	2	1	1

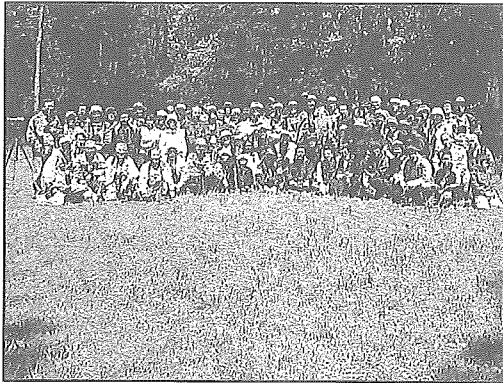
新河村川	百六湖	森林公園	武蔵丘陵	大沼公園	八丁湖	農林公園	県立	昭和池	さきたま	白鷺沼	泉沼自然	柳瀬川	嵐沢沼	元荒川	赤池遊水池	合計
川崎橋、五橋	大沼	公園内の池全部	大沼	池全部	芳沼	久喜菖蒲公園	古墳の池全部	沼全部	さいたま市	さいたま市	池全部	富士見橋、東橋	上沼	寄居橋、八幡橋、清橋	池全部	
川越市	川越市	吉見町	滑川町	江南町	吉見町	川本町	久喜市	行田市	さいたま市	さいたま市	志木市	富士見市	蕨市	白岡町	蓮田市	橋川市
																3
																35
22	24	17	280		110	183	819	612			5	2	1	1	526	3330
45	120	20	104			180	266	184	3	36	68	94	92	18	2858	
86	128	21	113			314	221	152			70	102	25	147	448	2525
																14
																13
																179
99	229		3			61	3				5		3		99	54
																1386
																1
																752
																258
																570
																748
																3
																30
																8
																732
5	6	6	10	0	3	9	12	4	5	8	5	6	5	5	5	162
254	510	69	539	0	152	1128	2233	952	37	301	297	125	345	1048	13443	
2	2	2	4	2	1	2	2	1	1	2	1	1	2	2	2	43

支部 20 周年記念探鳥会開催!!

日本野鳥の会埼玉県支部普及部

(財)日本野鳥の会創立 70 周年の年となり、各地で様々な催しが開かれています。支部も 20 周年を迎えました。

支部の第 1 回目の探鳥会が 1984 年 5 月 16 日に秋ヶ瀬公園で行われたことを記念して、4 月 25 日に開催された秋ヶ瀬公園探鳥会と物見山探鳥会を 20 周年記念探鳥会として、参加者に『しらこぼと』創刊号の復刻版を配布し、記念写真を撮影しました。



秋ヶ瀬探鳥会

参加者数 72 名 出現数 28 種



物見山探鳥会

参加者数 38 名 出現鳥 20 種

自宅近くの虫と鳥

御厨典子 (さいたま市)

見沼田圃沿いに住んでおりますので多くの野鳥に出会います。昨年は気がつかなかったのか、毎年聞く声で聞き流してしまっていたのか、カッコウが夜も鳴くとは思いませんでした。一晩中鳴くのですがもう数日続いています。同じ方向から同じ鳴き声なので 1 羽だ

と思います。葦原がありヨシキリもいるようなので托卵のできる親はいるからでしょう。

今年は鳥が昨年より多く見られます。理由は色々あると思いますが、餌である虫の種類と量が多くなったせいかと思います。またカラスが減っても居ます。移動したのかどうかは不明ですが、夕方飛ぶ数が減っていました。ツバメとコウモリは増えています。

まかないいう餌があると言うことだと思えます。2 年前が最悪の年でした。蛾が一匹も来なかった年でした。カラスウリに花が咲いても媒介者がゼロ。私が筆で付けた物だけが結実したのです。

今年は 2 匹の蓑虫もいました。蜘蛛の巣も増えていますし、蜂の巣も数個増えています。蟻に関しては、昨年は家に入ってくる物もなく、巣穴もほとんど無い状態でした。緑色のアブラムシにやられた苗もなく、バラも楽に育てられました。ケーキのかけらをまいてもセグロセキレイが来て食べる！と言うおどろき。蟻はたかりませんでした。

年ごとの感じ方では小さな虫のうねりのような動きがみえます。

今年は蛾がもう出ています。けれど小さな種類ばかりです。エビガラスズメのような大きな蛾はいません。したがって食い荒らされてもしかたがない蔦類は冬まで虫食いなしてました。

未だ大きな蛾までは復活していません。鳥にも影響があったと思います。モズが来ませんでした。数回声を聞いたただけでした。はやにえも見ない冬は初めてでしたから。全部ひっくるめて感じているだけの事ですが、少し変わってきていると思います

カッコウの夜鳴きは今年初めてです。早朝に鳴き声を聞くことはいつものことですが今まではカッコウが近くに住んでいなかったと言うことだったのか……。母が、何時寝るのかしらねえというほど、真夜中から朝まで鳴き続けています。

金属的な声で新能の時間に氷川の杜で鳴いていたのは何という鳥でしょうか。周囲の方々があれはなんていう鳥でしょうねえと囁きあっていました。



野鳥情報

- さいたま市緑区三室** ◇4月10日夕刻。芝川大道橋でカルガモの中にシマアジのつがいを目視、翌朝スコープで確認。三室探鳥会の記録では昭和60年に観察あるのみ。たとえば翼休めとはいえこのように見られるとうれしくなります(新部泰治)。
- さいたま市見沼区丸ヶ崎** ◇4月23日、ムナグロ81羽。4月28日、農道でホオアカ2羽。4月29日、ムナグロ79羽(本多己秀)。5月5日、タシギ2羽、ムナグロ29羽。5月6日、ムナグロ39羽、コチドリ1羽、畦道にホオアカ1羽。◇4月30日、ムナグロ約20羽。5月9日、ムナグロ約20羽、タシギ1羽、イソシギ3羽、トウネン2羽、トウネンは夏羽できれいだった。イソシギ2羽は争っていた(鈴木紀雄)。
- さいたま市見沼区深作** ◇4月23日、ゴイサギ6羽、オオヨシキリ、セッカ等。4月24日、卸売団地脇の電線でシラコバト1羽、池上空でコアジサシ1羽、ウグイス2羽、田の端の木に飛来。4月26日、調整池でタカブシギ1羽。チュウジシギ1羽、頭中央線が嘴基部に達しないことと三列風切の暗色部と淡色部が同一幅であることからオオジシギ等と異なるかと判断しました。ダイサギ1羽、目元の空色が実に鮮やかで、羽の白、周りの緑と相まって大変きれいでした。4月27日、コアジサシ2羽、ハシビロガモ2羽、イソシギ1羽。4月29日、タシギ2羽、石の上で昼寝(本多己秀)。
- 岩槻市長宮** ◇4月23日、水田でムナグロ約15羽。4月29日、ムナグロ約30羽、チュウシャクシギ3羽。4月30日、ムナグロ約80羽、チュウシャクシギ1羽。5月4日、ムナグロ42羽と約60羽の2つの群れ。5月5日、ムナグロ約30羽の群れにチュウシャクシギ1羽、キアシシギ1羽、キョウジョシギ1羽。ハヤブサが低空飛行してきて、彼らはみな固まってしまった(鈴木紀雄)。
- 岩槻市馬込** ◇4月23日、小児医療センター近くの田んぼでカシラダカ2羽。4月27日、シロハラ1羽、タシギ1羽(本多己秀)。
- 岩槻市樹** ◇4月23日、ムナグロ284羽。ウグイス、セッカ、ツグミ(多数)、アオサギ4羽など。4月24日、ムナグロ398羽、チュウサギ9羽、キョウジョシギ1羽、コチドリ1羽。4月26日、ムナグロ145羽。4月27日、ムナグロ93羽、キアシシギ1羽。4月29日、ムナグロ219羽、キアシシギ1羽、チュウシャクシギ8羽。5月6日、ムナグロ24羽が降りていたところに25羽が新たに飛来(本多己秀)。◇4月26日、ムナグロ約50羽。上空でツバメを掴むチョウゲンボウ。ツバメはまだ暴れており、別の1羽のツバメがモビングしていた(鈴木紀雄)。
- 岩槻市平林寺** ◇4月24日午前6時30分、水の入った田んぼでムナグロ39羽。ハヤブサ1羽、ムナグロの群れを追って飛んできました。5月5日、ムナグロ27羽(本多己秀)。
- 岩槻市岩槻文化公園** ◇4月25日午前8時頃、強風の中、釣堀上空でコアジサシ1羽、風にあおられて目標を定められないのか、何度か旋回していたが、そのまま飛び去る。5月2日、午前6時頃、富士通の近くの林からキビタキのさえずり。声はすれども姿は見えず。釣堀上空でコアジサシ4羽。次々ダイビングして小魚を捕る。空中で飲み込んで、またダイビング。慣れているのか釣り人は平然と釣糸を垂れていた(藤原寛治)。◇5月4日、センダイムシクイとエゾムシクイの声。キビタキ♂1羽が樹冠近くでさえずっていた。5月9日、コムクドリ約10羽、キビタキ♂1羽。5月10日、コムクドリ10羽。アカハラ約6羽の小群が鳴き交わして林内を移動(鈴木紀雄)。
- 蓮田市平林寺** ◇4月22日、ムナグロ40羽、コアジサシ2羽(本多己秀)。
- 蓮田市馬込** ◇4月22日、キジ♂2羽、田のそばの草むらから農道に出てきました。鳴き声さかん。4月24日午前5時20分、ムナグロ20羽西へ飛んで行く。4月29日、コチドリ1羽(本多己秀)。
- 蓮田市笹山** ◇4月25日より水が入り、4月26日、ムナグロ64羽飛来。5月15日、ムナグロ46羽、アマサギ2羽、カワセミ1羽、

ゴイサギ1羽、ダイサギ他(本多己秀)。
蓮田市黒浜周辺 ◇4月26日、ムナグロ約70羽。5月5日、ムナグロ約60羽の群れ及びムナグロ約10羽の群れにキアシシギ1羽、ハマシギ1羽。5月6日、ムナグロ約70羽、キアシシギ5羽、キョウジョシギ2羽、ハマシギ2羽(鈴木紀雄)。
蓮田市川島 ◇4月29日、ムナグロ約150羽。4月30日、ムナグロ80+ (鈴木紀雄)。
蓮田市蓮田 ◇4月29日、チュウシャクシギ4羽。5月9日午前5時50分、チュウシャクシギ2羽、田の中にいたが、写真を撮ろうと車から降りたところ、「ピピピ・・・」と警戒音を発して、奥の茂みに隠れてしまった。オオヨシキリ、ヒバリ、ツバメなど田が華やいでいる。午前7時、ムナグロ70羽が東方から飛来。5分位旋回し、「ピーピー」鳴きながら田んぼに降りた。早苗の緑が美しい。5月14日、ムナグロ4羽、チュウシャクシギ1羽、ハマシギ1羽。オオヨシキリとヒバリの声が大合唱(本多己秀)。
春日部市不動院野 ◇4月29日、ムナグロ120+。5月5日、ムナグロ30羽(鈴木紀雄)。
北本市石戸宿 ◇5月3日午前6時20分、自然学習センター内の林でクロツグミのようなさえずり(ただ声量がない)を聞き、プロミナーで確認すると、なんとツグミの亜種のハチジョウツグミであった。腹部から体全体が赤茶色をしていた。他にイカル、アカゲラ、エナガなどが見られた(立岩恒久他2名)。
坂戸市城山 ◇4月4日、新緑の森に美声のさえずり。キビタキ♂1羽、イカル2羽、アカハラ、クロジ♀各1羽。林縁の木の枝で「ケキョケキョ」とウグイスの鳴きまねでさえずるガビチョウ1羽(増尾隆)。

渡良瀬遊水地 ◇4月25日、ノスリ3羽、トビ3羽、チュウヒ2羽、チョウゲンボウ♂1羽(鈴木紀雄)。

横瀬町県民の森 ◇4月29日午前7時~11時、広葉樹の林でツツドリの鳴き声が響き渡る。アカゲラ1羽。地面から大型ツグミ類が2羽飛び上がり、1羽は飛び去り1羽が木にとまる。双眼鏡で確認したら、トラツグミだった。新緑に溶け込んで意外に目立たなかった。コルリ1羽、声はすれども姿は見えず。キビタキ3ヶ所でさえずり、オオルリ2ヶ所でさえずり、クロツグミ♂1羽、目の前を通過、サンショウクイ1羽上空通過、ヤブサメ灌木の上で1羽、見つけた瞬間茂みに飛び込む。センダイムシクイ3ヶ所でさえずり。マヒワ約10羽、鳴き交わしながら群れで行動していた。何群かいたと思われる。アオゲラ♂1羽♀1羽、♀がけたたましく鳴きながら飛んできて杉の木にとまる。1~2分後、♂が同じように鳴きながら飛来。他にウグイス、エナガ、コガラ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カケスなど。緑が濃くなっていて、鳥は見つけにくかった(藤原寛治)。

寄居町中間平緑地公園 ◇5月1日午前、クロツグミ♂、アカハラ各1羽が通路脇で採餌。前後して両種のさえずり。キビタキ♂1羽、アオゲラ♂1羽、イカル、ビンズイ。ヤブサメとツツドリの声(鈴木敬)。

寄居町西古里 ◇5月3日朝、関越道沿いでツツドリ1羽、ヒヨドリに追われる様に林から飛び立った。付近でセンダイムシクイの声(鈴木敬)。

滑川町伊古 ◇5月2日午後、二ノ宮山でスズメ、エナガと同じ木にコサメビタキ1羽(鈴木敬)。

表紙の写真

コチドリ(チドリ目チドリ科コチドリ属)

今月も身近な鳥です。お母さんの胸から変な足が見えるのは、雛が1羽もぐりこんでいるからです。2羽の雛が、時々お母さんから離れて歩き回り、数分すると、また胸の下に戻ります。1羽が先に右から入り込み、同じところにもぐりこもうとしたもう1羽が入れず、あわてて左にまわってなんとかもぐりこみ、2羽の雛が左右からしっかり足をふんばり、お母さんにからだを押し付けていました。

写真と文：編集部

行事案内



(富士鷹なすび)

群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月4日(日)

集合：午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時30分、板倉町総合運動場入口。

交通：東武日光線新越谷7:11→春日部7:25→栗橋7:54→板倉東洋大前8:06着。JR宇都宮線浦和7:01→大宮7:08→栗橋7:43着にて東武線乗り換え。

解散：午前11時30分頃、親水ゾーンにて。

担当：橋口、伊藤(隆)、玉井、内田、田邊、中里、田村、四分一

見どころ：渡良瀬遊水地の夏は暑さが厳しいのでアシ原浄化ゾーンに逃れます。オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカが合唱するなか、ヨシゴイ、ササゴイの姿をもとめます。カッコウも托卵を狙って現れるかも知れません。集合場所は板倉町に変わりましたのでご注意ください。帽子と水筒、雨具の用意を忘れずに、お出かけください。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月11日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:11発、または寄居8:49発に乗車。

担当：後藤、和田、森本、中里、島田、石井(博)、倉崎、高橋(ふ)、藤田、栗原、飛田、大澤、新井(巖)

「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般100円、会員と中学生以下は50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も(なくても大丈夫)。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

見どころ：大変蒸し暑い季節、今年巣立った若鳥たちを探しましょう。電線で親鳥の給餌を待つツバメ、親鳥のあとに続くカルガモの子、もちろんスズメやシジュウカラなども。大麻生は今年もにぎやかなことでしょう。照れば暑い日差しの河原です。帽子と飲み物を忘れずに。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月11日(日)

集合：午前10時10分、森林公園南入り口前

交通：東武東上線森林公園駅下車、森林公園南口行き9:49発バスにて終点下車。

費用：入園料400円(子供80円)

担当：佐久間、内藤、岡安、藤掛、喜多、青山、山田(義)、高橋(優)

見どころ：梅雨時ですが、ちょっと出かけてみませんか。去年は冷夏で涼しかったのですが、今年はどうでしょうか。緑の濃いなかで小鳥や草花、そして国蝶のオオムラサキを探しましょう。

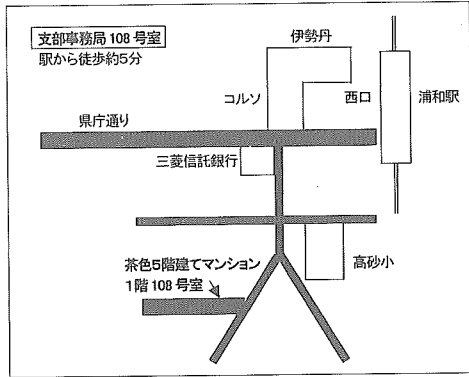
『しらこぼと』袋づめの会

とき：7月17日(土)午後3時~4時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：梅雨が明けてくれれば夏本番。鳥を追い涼を求め、夏山に出かける最高の時期ですネ。それとも「明けないので仕方ない、袋詰め」？事務局の周辺はただ今大規模工事中。ずいぶん変わりま

したよ。



さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月18日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、渡辺(周)、倉林、若林、森(力)、赤堀、小菅、新部

見どころ：夏休みが始まる。見沼田んぼに暑い暑い夏が始まる。鳥たちはどこへ行ったのだろうか。でも、桜並木を歩いて行くと、カッコウの声が聞こえる。オオヨシキリがひとしきり芝川で鳴く。梅雨明けの見沼へお出かけください。

狭山市・入間川定例探鳥会

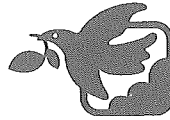
期日：7月25日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：43発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)

見どころ：ぎこちない動き、親鳥とは少し違う羽。今年巣立った若鳥たちを探してみましよう。炎天下の河原を歩きます、日陰が少ないので、帽子と飲み物は忘れずに。



野鳥記録委員会の情報

日本野鳥の会埼玉県支部 野鳥記録委員会

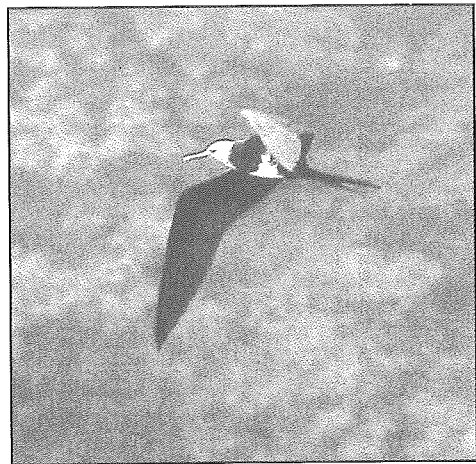
●コグンカンドリを追加

分類 ペリカン目グンカンドリ科グンカンドリ属

英名 Lesser Frigatebird

学名 *Fregata ariel*

2004年5月7日（金）所沢市狭山湖で若鳥1羽が発見され、同月9日（日）に海老原美夫が撮影しました。



9日午後には高く舞い上がって東南東方面に飛び去るのが観察されたので、それが最後と思われましたが、翌10日（月）にも現れました。11日以降は観察されず、結局10日が終認のようです。

本種は2002年7月に隣接した東京都東大和市多摩湖で観察され、県内での観察や撮影の情報について『しらこぼと』同年12月号で呼びかけましたが情報がなく、確認記録にならなかったという経緯があります。

今回は問題なく埼玉県内の情報として、オオメダイドリに続く317番目の確認記録になりました。

県内での過去の記録は、1981年7月に戸田市市内で観察された写真のない情報1件だけでした。



行事報告

1月17日(土) 吉見町 吉見百穴周辺

参加: 23名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ
アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ
ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ
ノスリ バン キジバト カワセミ コゲラ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ
ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ
ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ
アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ
ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
(39種) 降雪予報にもめげず集合した23名の熱意が通じたのか、思いがけない鳥が出現して、皆大喜びだった。市野川では4種のセキレイ類、大沼ではヨシガモがじっくり見られた他、カワセミが行ったり来たり。われわれの鳥合わせを枝先に止まったノスリが見守っていた。(岡安征也)

2月1日(日) 北本市 石戸宿

参加: 86名 天気: 晴

カワウ ダイサギ マガモ コガモ オオタカ
ノスリ ハヤブサ バン キジバト カワセミ
コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ
ツグミ ウグイス エナガ シジュウカラ ホオジロ
カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス
(31種) ヤマシギ、トラツグミ、アリスイ、ベニマシコなどが越冬していたのだが、当日は現れず残念。釣堀では常連のカワセミが見られた。東屋近くでは、ハヤブサ、オオタカ、ノスリの競演! 高尾の池周辺ではアカハラとシロハラがじっくり観察できた。解散後は自然学習センターで開催中のボタニカルアート展を楽しんだ。

(岡安征也)

2月22日(日) 岩槻市 岩槻文化公園

参加: 54名 天気: 晴

カワウ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガ

ガモ オオタカ チョウゲンボウ コジュケイ
イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ
コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
モズ ジョウビタキ アカハラ シロハラ
ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ
シメ スズメ ムクドリ カケス オナガ
ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) 歩行者が露払いをしたため、出現鳥が少なく、心配しながらの出だしだったが、間もなく地面近くで虫をついばむカケスが見られたり、葦原では数羽のオオジュリンが見られたりして、盛り上がった。数名だがオオタカがヒヨドリを襲う場面やカワセミを見た人もいた。前日見られたアリスイやヨシガモが見られず残念だった。(中村榮男)

2月22日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 35名 天気: 晴

カワウ コサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ
オナガガモ チョウゲンボウ キジ イカルチドリ
イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト
コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ
ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ
ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
(34種) 風もなく暖かい日差し。今回は葦の中にオオジュリンが多い。鉄塔ではチョウゲンボウが一休み。期待されたタグリは顔を出さなかったが、タシギとイカルチドリが中州で待っていた。

(高草木泰行)

3月6日(土) 加須市 はなさき公園

参加: 24名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ
カルガモ コガモ ヒドリガモ ハシビロガモ
ホシハジロ キンクロハジロ チョウゲンボウ
キジ バン キジバト ヒバリ キセキレイ
ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
シロハラ ツグミ ウグイス ホオジロ カシラダカ
アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス
(34種) まるで真冬に逆戻りしたような小雨まじりの寒い朝となった。青毛堀川沿いにコースを進む。やがて天気も回復して青空が広がると同

時にヒバリが急にさえずりだした。池には6種のカモが入っていた。ヒドリガモの緋色がとてもきれいだ。植物園ではジョウビタキが何度も出てくれた。茂みではキジが顔をのぞかせてじっとこちらの様子をうかがっていた。上空ではチョウゲンボウがホバリングを披露してくれた。朝とは一転してポカポカ陽気の探鳥会となった。

(中里裕一)

3月7日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加: 58名 天気: 晴

カイツブリ ダイサギ オシドリ カルガモ コガモ オオタカ チョウゲンボウ キジ クイナバン オオバン タシギ キジバト カワセミ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 前日に続いて数組の家族連れを含めて多人数が参加してくれた。これに応えるように、黒浜沼では珍しいオシドリが水面を泳いだ。次いで、オオタカが2度も現れて、冷たい北風に負けずに大空に輪を描き、最後に人気者のカワセミがじっとポーズを取って目を楽しませてくれた。(玉井正晴)

3月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 28名 天気: 晴

カイツブリ カワウ トビ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ コジュケイ キジ コチドリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 大変暖かく、春の陽射しを受けて大麻生駅を出発。土手に上がると、ホオジロ、シメ、モズ、ベニマシコ等が出現。少し歩を進めると、キジが土手を横断。まさに春を迎え、大麻生は小鳥たちの楽園と化していた。川原へ向かう途中では、上空にオオタカ、ノスリ等も出現。河原ではチョウゲンボウ、カワセミ、夏鳥のコチドリまで。ウグイスを筆頭に、多数の小鳥たちの轉りを聞きながら探鳥会を締めくくった。(後藤康夫)

3月14日(日) 松伏町 松伏記念公園

参加: 33名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ バン オオバン シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ メジロ ホオジロ ホオアカ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (32種) 松伏中央公民館から参加した7名を含む一行で、公園とその周辺の農耕地をゆっくり歩いた。前日の下見では見られたシラコバトの集団採餌は、もう解散か。それでも数羽が出てくれた。鳥インフルエンザの勉強もちょっとして、野鳥が菌の運び屋との疑いが早く晴れることを願って解散した。(田邊八州雄)

3月14日(日) さいたま市 見沼自然公園

参加: 54名 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ キンクロハジロ コジュケイ バン オオバン タシギ キジバト アカゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種) 春の息吹を感じる気持の良い天候の中、開始する。加田屋川ではタシギが、共立病院の雑木林ではアカゲラが久々に出現した。見沼自然公園の池では、オカヨシガモ始めカモたちやオオバンが間近で観察できた。これが、当探鳥会の目玉。ツバメの初認を期待したが残念だった。(工藤洋三)



5月25日評議員会後の懇親会
(左から橋口、柳生会長、藤掛、海老原)



●関東ブロック支部の事務局変更

次の通り変更になりました。

茨城支部 新事務局

〒310-0002 水戸市中河内町 925-6

TEL&FAX 029-224-6210

奥多摩支部 新事務局

〒

様方 TEL

●理事会と評議員会に出席

5月25日(火)午前中に理事会、午後に評議員会が、都内新宿区で開催され、両方に常務理事として海老原美夫が、評議員会に評議員として橋口長和、オブザーバーとして藤掛保司支部長が出席しました。

平成15年度事業報告と決算案の審議が主な議題で、その他にシマフクロウ保護地買い取りのことなども話し合われました。

夕方からは理事、評議員、事務職員などが集まって懇親会が開かれ、関東ブロックの評議員、橋口(埼玉県支部)と池野(茨城支部)が連名で後日各支部に送った報告の中では、懇親会のことが次のように紹介されています。「柳生会長を中心にして記念写真を撮ったり、談笑したり。会長と事務局との溝も感じられないほど明るく賑やかな雰囲気に終始した。締めめの前の会長挨拶に、最悪でも会員減少の下げ止まりをやろう、と謙虚だが熱のこもった言葉があり、久々の明るい懇親会に、近い将来に明るさを感じた評議員が多かった。」(写真11ページに)

●全国の会員数4年ぶりに微増

6月1日、本部事務局で大きな歓声があが

りました。全国の会員数が前月に比べ、173名増えたのです。4年ぶりのことでした。

埼玉県支部では今月も減少していますし、7月8月は例年会員数が減少する月ですから、来月も引き続き増加するかどうかはわかりません。それでもひとつの明るいニュースでした。

●事務局の予定

7月3日(土)編集会議、普及部会議、研究部会議。

7月10日(土)8月号校正(午後4時から)。

7月17日(土)袋づめの会(午後3時から)。

7月18日(日)役員会。

●会員数は

6月1日現在2,452人です。

活動報告

5月15日(土)6月号校正(海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、志村佐治、藤掛保司)。

5月16日(日)役員会(司会:楠見邦博、各部の報告・評議員会の傍聴申し込み・支部の新役員候補・その他)。

5月17日(月)探鳥会リーダー用腕章の追加作成を発注。

5月22日(土)評議員会幹事会に出席(橋口長和、海老原美夫)。

5月24日(月)6月号を発送(倉林宗太郎)。

編集後記

明日からサンフランシスコ。仕事で行くだけでなく、バッグにまっ先に入れたのは、アメリカの鳥の図鑑と双眼鏡だった…。(みどり) 思わぬ所でオアバズクの声。私が知っている繁殖場所からは1km以上離れている。新しい繁殖地? 行動範囲はどれくらいなのだろうか? (ヤマベズク)

しらこぼと 2004年7月号(第243号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階

(財)日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。 印刷 関東図書株式会社